



全国精神保健福祉連絡協議会の現状と 今後の活動について

一般社団法人全国精神保健福祉連絡協議会 会長 竹島 正

全国精神保健福祉連絡協議会は、1960（昭和35）年の世界精神衛生年を契機として都道府県に精神衛生協会が設立されるようになったことから、それらの横の連携を密にして、相互に助け合うことを目的として1963（昭和38）年に設立されました。設立の当初、事務局は厚生省精神衛生課に置かれ、その後、国立精神衛生研究所に移り、長く同研究所長を会長としてきましたが、2007（平成19）年からは同研究所名誉所長であった吉川武彦先生が会長を務め、私は副会長（事務局長）として、吉川会長の補佐を務めてきました。吉川会長のご逝去の後、2015（平成27）年10月の理事会・総会の承認を得て会長となり、3年近く過ぎたところです。以下、会長就任時にミッションとして掲げた6項目にどのように取り組んだかを振り返り、今後の方向性についても述べたいと思います。

1. 精神保健福祉の問題は広く市民生活全体の中に存在することを踏まえて、本協議会の強みを活かした情報発信と提案を積極的に行います。

全国精神保健福祉連絡協議会の理事会・総会にあわせて、これまでの懇話会に加えて、ミニレクチャーを開催することとしました。

また、2016（平成28）年7月の相模原障害者施設殺傷事件の重大性に鑑みて、9月に上智大学において、精神保健メディアカンファレンス「相模原の事件が問いかけるもの」を開催しました。この後、大阪精神保健福祉協議会は11月にシンポジウム「相模原事件と精神障害者～胸を張って生きていこう～」を開催しています。本協議会としては、これからも精神保健メディアカンファレンスを積極的に開催していきます。

2. 各都道府県の精神保健福祉協会等との連携を強化し、その活動基盤強化のための情報収集・提供を積極的に行います。

各都道府県の精神保健福祉協会等の今後の発展のための基礎資料とすることを目的として、2016（平成28）年10月に「精神保健福祉協会の運営基

盤等に関する調査」を行いました。各都道府県の協会活動の状況は大きく異なるものの、全般に協会の運営体制と財源の確保が共通した課題であることがわかりました。この調査結果を各都道府県の協会と共有するとともに、各都道府県の協会と本協議会の協働による活動強化の具体策に取り組みます。

3. 外部資金の獲得による、アートをとおしての精神保健の啓発に継続して取り組みます。

平成29年度に日本財団の助成を得て、アートとトークによる多様性尊重の社会づくり展「かく、みる、つなぐーこころの軌跡をたどる」を開催しました。今後も外部資金を獲得してアートによる啓発に取り組みます。

4. 他の精神保健関係団体との交流を進め、それら団体との円卓的な話し合いの場を設けます。

日本精神保健福祉連盟の会員の一員として、同じ会員組織との交流を進めました。また、自殺対策円卓会議シンポジウムへの参加等を行いました。

5. 精神保健福祉全国大会等を活用して、地域の精神保健福祉活動の発展に貢献された団体・個人の顕彰を積極的に行います。

各都道府県の協会からの推薦や、本協議会としての検討をもとに、精神保健福祉全国大会における表彰に積極的に推薦を行ってきました。

6. 本協議会の財政基盤、事務体制の強化に努めます。

本協議会の活動の一層の発展のため、事務局を上智大学グリーンケア研究所（島園進所長）に移転することとしました。同研究所は、日本におけるグリーンケアの理解・啓発を行い、グリーンケアを抱える者「悲嘆者」がケアされる健全な社会の構築に貢献することを目的としています。今回の事務局移転を機に、精神保健とグリーンケアの連携を図ってまいります。

（川崎市健康福祉局障害保健福祉部担当部長/精神保健福祉センター所長）

アール・ブリュット&アート写真展を開催しました。

一般社団法人日本精神科看護協会 業務執行理事 仲野 栄

当協会では、精神障害者による芸術作品を発掘、紹介する事業を行っています。その事業の1つとして、毎年6月に開催する日本精神科看護学術集会に合わせて、アール・ブリュット&アート写真展を開いています。

アール・ブリュットは、文化的な伝統や流行、教育などにとらわれず、独自の発想と方法によって制作された作品のことです。アール・ブリュットと呼ばれる作品をつくる作家たちには、知的障害や精神障害をもつ人が少なくありません。そこで、当協会では平成20年度から全国の会員施設に向けて作品の公募を行い、アール・ブリュット作品の発掘を続けています。また、平成28年度からは精神障害者によるアート写真コンテストも実施しており、精神障害者の芸術活動を支援しています。

今年は、6月15日～17日に名古屋国際会議場で「アール・ブリュット&アート写真展」を開催しました。自由で個性豊かな作品が展示されるこの展示会は、学術集会に参加する会員がとても楽しみにしているイベントです。今回は2人の作家が来場し、ライブで作品を制作する時間を設け、たくさんの方が見学者が集まりました。

その作家の1人の勝部翔太（かつべしょうた）さんの作品は、3cmほどの小さな人形です。人形の素材は、雑貨店などで売られている「アルタイ」という商品名の、パンやお菓子を入れた袋の口を縛るためのカラフルな針金です。その針金を、小さなハサミや爪切りで切り込みを入れながら曲げ伸ばして、あっという間に人形を創りあげます。作品は戦闘ロボットが多く、数ミリしかない小さな刀などの武器は着脱可能な精巧な造りです。勝部さんの作品の評価は高く、ヨーロッパ巡回展では最も人気のある作家になりました。そんな勝部さんは、大好きな人にプレゼントするために作品を創ります。相談支援担当の看護師に作品をプレゼントしたことがきっかけで注目されることになりました。



今年のアート写真コンテストには、自薦の作品応募がたくさんありました。その中で準グランプリに選ばれた松本郁子（まつもといくこ）さんの作品「新緑の散歩」を紹介します。



<撮影者・松本さんのお話>

私が写真を撮るようになったのは10年ほど前、発病する少し前くらいの時期でした。私は病気の影響で手が震えてしまう症状があったのですが、カメラを手に持って、ファインダーをのぞいて呼吸を整えると、震えが止まって心が落ち着くんです。自宅に閉じこもりがちだった私を、外に連れ出してくれたのは幼なじみとその子が飼っているワンちゃんです。一緒に近所のあちこちへ出かけては、写真を撮る楽しみができました。デイケアでも2年前には「写真部」という活動があって、皆で楽しく撮影する機会がありました。

デイケアのミーティングで看護師さんから「こんな写真コンテストがあるよ」と教えてもらって、私も応募してみようと思って出してみたのがこの作品。去年の6月頃、西宮市にある廃線になった線路がハイキングコースになっていて、2人と1匹で出かけた日の1枚です。清々しく、爽やかな場所で、大好きな友だちと一緒に過ごしている楽しい気持ちをそのまま撮った作品が受賞できて、とても嬉しいです。楽しい気持ちを共有できる、写真の素晴らしさをあらためて感じています。私を外へ連れ出してくれた、彼女とワンちゃんに感謝したいです。これからも、「楽しい気持ち」を感じられる瞬間をたくさん撮って、感動を伝えられる表現を広げていきたいと思っています。

呉秀三「精神病患者私宅監置ノ実況」刊行100周年記念 「メンタルヘルスの集い」(第32回日本精神保健会議)開催について

公益財団法人日本精神衛生会 事務局長 伊藤龍彦

標題の「集い」は、公益財団法人日本精神衛生会が、メンタルヘルスの啓発普及を目的にさまざまなテーマを設定して、毎年3月に東京有楽町の朝日ホールで開催しています。参加費は無料で、精神保健関係者をはじめ行政や教育関係者、一般市民などにご参加いただいています。今年は、当会の前身の「精神病患者慈善救治会」を設立した呉秀三東京帝国大学医科大学教授が、近代精神医療の原点となる「精神病患者私宅監置ノ実況及び其統計的観察」を刊行して100年となることから100周年記念として実施しました。開演に先立ち、厚労省障害保健福祉部の宮寄部長や日本精神神経学会など共催団体の代表にご登壇頂きました。そして当会が製作中の映画「夜明け前―呉秀三と無名の精神障害者の100年」の予告編を上映し、来場した呉秀三のお二人のお孫さんに、小島理事長がこの映画(DVD)の目録を贈呈しました。

今回のタイトルは私宅監置論文の中の有名な文言“二重の不幸”を引用し、「“二重の不幸”から100年～わが国の精神医療がたどった道とこれから～」として、午前中は呉秀三の業績に詳しい岡田靖雄氏(精神科医、精神科医療史資料室・青柿舎主宰)と橋本明氏(愛知県立大学教育福祉学部教授)の対談、午後はシンポジウムを行いました。同時に展示会「精神病患者私宅監置と日本の精神医療史」を実施し、私宅監置の状況を伝える写真パネル、呉秀三の業績や精神医療の歴史に関する資料を公開しました。



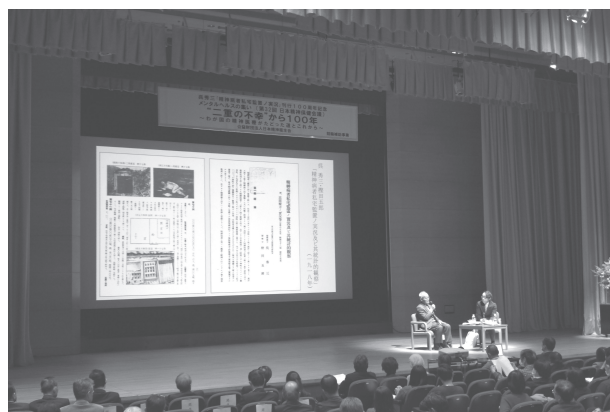
対談では私宅監置論文の内容、成立の経過、現代的意義や呉秀三の人柄について紹介されました。岡田氏は精神病患者に対して国や地方自治体は何もなかったことが戦前は私宅監置に、戦後は精神科病院の病床過多に繋がっていると指摘しました。また橋本氏は、私宅監置論文は「私宅監置の悲惨さ」を伝えるものと理解されることが多いが、当時の医療制度や民間医療の広がり、患者の家族や地

域社会との関係など、近代日本の精神医療の多様な側面を浮き彫りにしていると述べました。

シンポジウムでは、大阪精神医療人権センターの山本深雪副代表が当事者の対場から、読売新聞の田中秀一氏が精神科医療での入院と薬物治療の二つの偏重について、成城大学法学部の山本輝之教授が強制入院制度の現状とこれからについて、日本精神保健福祉士協会の柏木一恵会長がPSWの立場から日本の精神医療について、精神科医の樋口輝彦氏が偏見と差別について発表されました。そして指定討論として東京精神科病院協会会長の平川淳一氏が患者さんの医療環境を改善し、相談しながら治療して早期退院を目指す精神科病院の取り組みを紹介し、家族会みんなねっとの本條義和理事長は入院治療よりも地域で生活しながら治療する事の重要性と差別偏見をなくすために啓発・教育の必要性を述べました。シンポジウムの後半では会場の参加者からも多くの質問や貴重なご意見をいただきました。コーディネーターで精神科医の夏苺郁子氏は、精神科医療の質を高めるには医師が権限をワーカーや看護師に委譲できる制度が必要と述べられました。最後にもう一人のコーディネーター当会の藤井克徳理事が、この「集い」が日本の精神医療・福祉を変える節目となるようにしようと呼びかけました。参加者は会場の定員を上回る615名に上りました。

この「集い」の詳しい内容は当会が発行する広報誌「心と社会172号」(平成30年6月発行)に収録しています。なお次回の第33回「メンタルヘルスの集い」は平成31年3月2日に朝日ホールで開催する予定です(入場無料・申込み不要)。

「集い」と広報誌「心と社会」に関するお問い合わせは、公益財団法人日本精神衛生会事務局(電話03-3269-6932)までお願いします。



公益社団法人日本精神保健福祉連盟役員並びに名誉会長一覧

平成30年7月現在

1. 理事 (16名)

【代表理事 2名】

会長	鮫島健	公益社団法人日本精神科病院協会 名誉会長
理事長	鹿島晴雄	国際医療福祉大学大学院教授・慶応義塾大学医学部客員教授

【常務理事 3名】

常務理事	大西守	日本精神衛生学会 常任理事
	富松愈	公益社団法人日本精神科病院協会 副会長
	竹島正	一般社団法人全国精神保健福祉連絡協議会 会長

【理事 11名】

理事	小島卓也	公益財団法人日本精神衛生会 理事長
	樋口英二郎	公益財団法人復光会 常勤理事
	米谷和春	公益財団法人矯正協会 調査役
	中田克宣	公益社団法人全日本断酒連盟 理事長
	末安民生	一般社団法人日本精神科看護協会 会長
	田中慶司	公益社団法人アルコール健康医学協会 理事長
	渡辺洋一郎	公益社団法人日本精神神経科診療所協会 会長
	竹中秀彦	公益社団法人日本精神保健福祉士協会 相談役
	大野史郎	公益社団法人日本精神科病院協会 理事
	高畑隆	一般社団法人全国精神保健福祉連絡協議会 理事
	田中正博	全国手をつなぐ育成会連合会 統括

2. 監事 (2名)

	松村英幸	公益社団法人日本精神科病院協会 (医療法人社団根岸病院 理事長・院長)
	丸山晋	一般社団法人全国精神保健福祉連絡協議会 監事

3. 名誉会長 (2名)

	保崎秀夫	慶応義塾大学名誉教授
	仙波恒雄	公益社団法人日本精神科病院協会 名誉会長

【役員任期 平成29年6月16日より
平成31年の定時社員総会終了まで】

注1 公益社団法人日本精神保健福祉連盟定款
第27条 (役員任期) によるものとする。

〈編集後記〉

連盟だよりNo. 62をお届けします。

さて本号では、(一社)全国精神保健福祉連絡協議会の竹島正会長からご玉稿をいただきました。有難うございます。時代に即応した、精神保健福祉活動の在り方に言及されるなか、精神保健とグリーンケアとの関係など新たな試みにも触れられています。

また、(公財)日本精神衛生会が毎年開催されている「メンタルヘルスの集い」は、「呉秀三『精神病患者私宅監置ノ実況』刊行00周年記念として盛況のうちに終了されました。

(一社)日本精神科看護協会がやはり毎年開催されている「アール・ブリュット&アート写真展」のご報告いただき、興味深く拝読しました。

今年度も、精神保健福祉全国大会の開催、全国障がい者スポーツ大会への参加など、多くの事業が予定されております。引き続き、関係団体の方々のご理解・ご協力をお願い申し上げます。(M. O.)

編集委員会

委員長	大西守	公益社団法人日本精神保健福祉連盟常務理事
委員	仲野栄	一般社団法人日本精神科看護協会業務執行理事
	高畑隆	一般社団法人全国精神保健福祉連絡協議会理事
	塩入祐世	公益社団法人日本精神神経科診療所協会会員 東京精神神経科診療所協会理事
	寺田一郎	(社福)ワーナーホーム理事長

発行 平成30年7月8日

発行者 公益社団法人 日本精神保健福祉連盟

会長 鮫島健

〒108-0023 東京都港区芝浦3-15-14

TEL 03-5232-3308 FAX 03-5232-3309

Email : f-renmei@nissseikyo.or.jp

HP : <http://www.f-renmei.or.jp>